

# 小田地区のおでかけ行動の特徴分析

筑波大学 社会工学域 次世代・レジリエント都市研究室



研究室Web



代表 浦田淳司

## ■ 自己紹介&取組み概要

筑波大学で都市計画や交通計画を学ぶ研究室です。昨秋から、小田地区を対象に、多世代の住みやすさを向上し、地域居住を維持していくためには、どうしたらいいかを考えています。

筑波地区を中心に活動する(一社)住まいと暮らしの相談ぷらっと(ぷらっとつくば)さんとも連携して、議論しています。

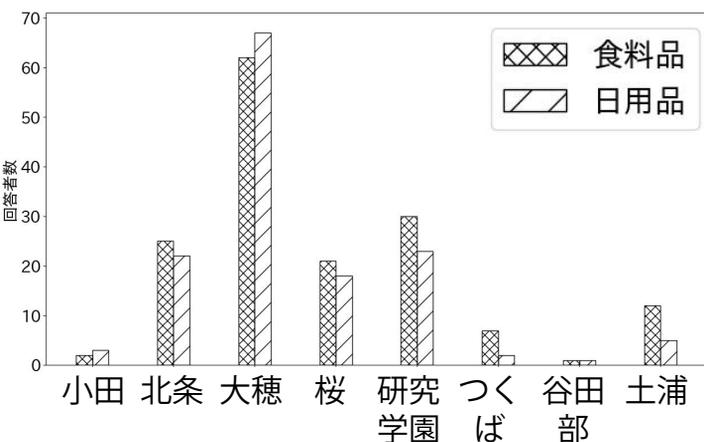
## ■ 分析アンケートの概要

今冬に、ぷらっとつくばが小田地区の戸建住宅にお住いの方を対象に実施した「住まいと暮らしに関する課題意識調査」のアンケートのうち、『おでかけ行動』に関する項目を分析しました(回答者数:77人)。

調査に協力していただいた皆様、ありがとうございました。

## ■ わかったこと

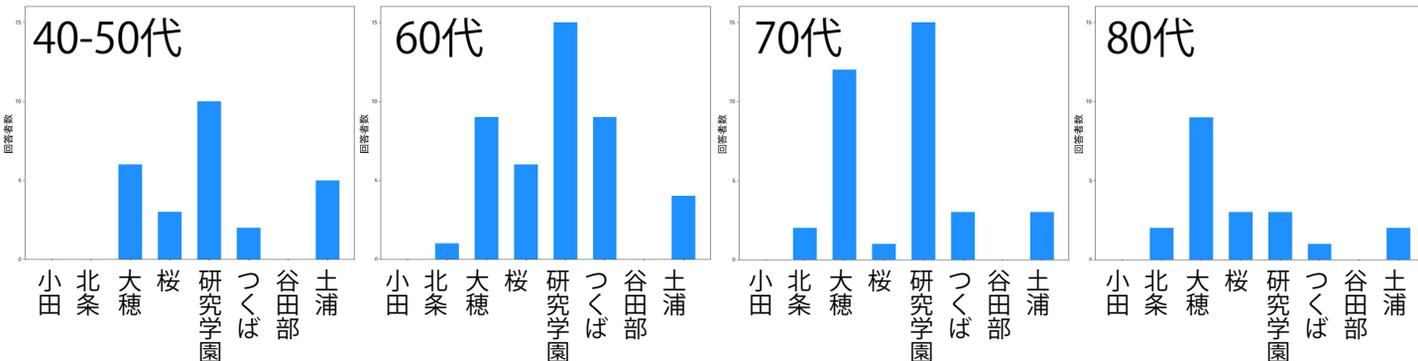
### ① 食料品や日用品の買い物には、どこに行くか？



✓ ①の結果から、小田の人々は、食料品や日用品の買い物先として、大穂に行く人が最も多く、他には、研究学園、北条、桜に行く人が多い。

✓ ②の結果から、飲食のおでかけ先は、40~70代は研究学園、大穂の順に多いですが、80代は大穂に行く人が多い。→高齢になるほど、行動範囲が狭まっている可能性が浮かびあがりました。

### ② (年代別) 飲食する時は、どこに行くか？



今後も、おでかけしやすくするための提案に繋がる研究を進め、若い世代も含めた地区の住みやすさ向上に取り組めます。